

南一条地区開発事業推進協議会

まちづくりの考え方

平成23年6月

1

南一条地区開発事業推進協議会 まちづくりの目標

私達がめざすのは、

『賑わいと札幌ライフスタイルを創造する 新南一条ストリート』

● まちの将来像

- ✓ 過ごして楽しい！！豊かな市民生活を創造するまち・・・

生活

札幌の「豊かなパブリックライフ」を満喫できる上質で多彩な商業文化集積の街

- ✓ みんなが愛する！！新たな札幌文化を提案するまち・・・

文化

成熟した都市社会にふさわしい「札幌ならではの文化」を世界に向けて発信する「創造都市札幌」を代表する街

- ✓ 人・地球にやさしい！！環境首都札幌を実現するまち・・・

環境

大通公園や創成川公園、創成 1.1.1 区と連携して、人と環境にやさしい「環境首都札幌の顔」としての一翼を担う街

● まちづくりの基本方針

顔づくり

—北海道、札幌のにぎわいの中心としての伝統を受け継ぐ上質な「顔づくり」

繋がりづくり

—札幌都心の回遊性を促進する「歩行空間と公共交通のネットワークづくり」

舞台づくり

—夏も冬もいつでも人に優しく、多様な活動が展開される「広場とストリートづくり」

エコづくり

—地球にやさしい「環境負荷低減を目指すまちづくり」

●：重点項目

○：空間づくりの考え方

●トランジットモール化
(地上の広場化)

- 人のための空間確保による回遊性向上と、賑わいの創出
- 緑があふれる安らぎ空間と、上質でおしゃれな景観の創出
- 開放的で快適な休憩施設や、多様な活動の展開を支える広場の創出

賑わいと札幌ライフ
スタイルを創造する
新南一条ストリート

●環境にやさしい交通システムの再構築

- にぎわいの中心である大通・南一条地区で路面電車を降りたくなる空間の演出
- バリアフリーや、歩行者・自転車などの動線が交錯しない安全な機能配置と空間構成
- 地下鉄やバス、市電などの公共交通機関とのアクセス性の向上

●地下歩行空間の整備

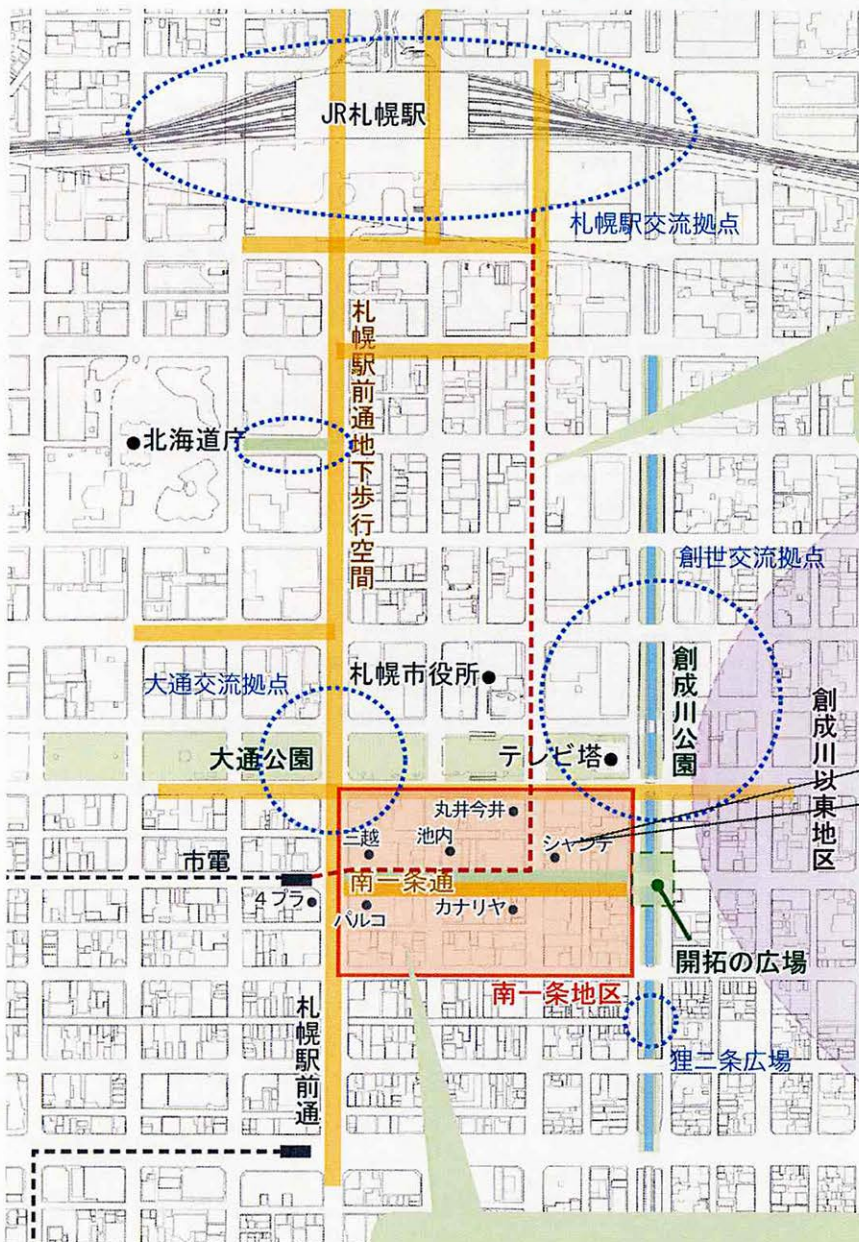
- 一年を通して気軽に休憩できる施設や、多様な活動の展開を支える広場の創出
- 地上や商業施設への接続、公共交通機関などへの動線の確保
- 地上の光や緑、まちの様子、地上と地下の一体感を感じ取れる人にやさしい環境の形成

●地元・行政・市民が一体となって育みます

- 民間による再開発や地下歩行空間との建物の接続などを通しての官民協働による魅力的な公共空間の整備
- まちづくり会社等と連携し公共空間の官民協働による特色のあるマネジメント
- 省エネルギー省資源の街区づくり

<ネットワーク>

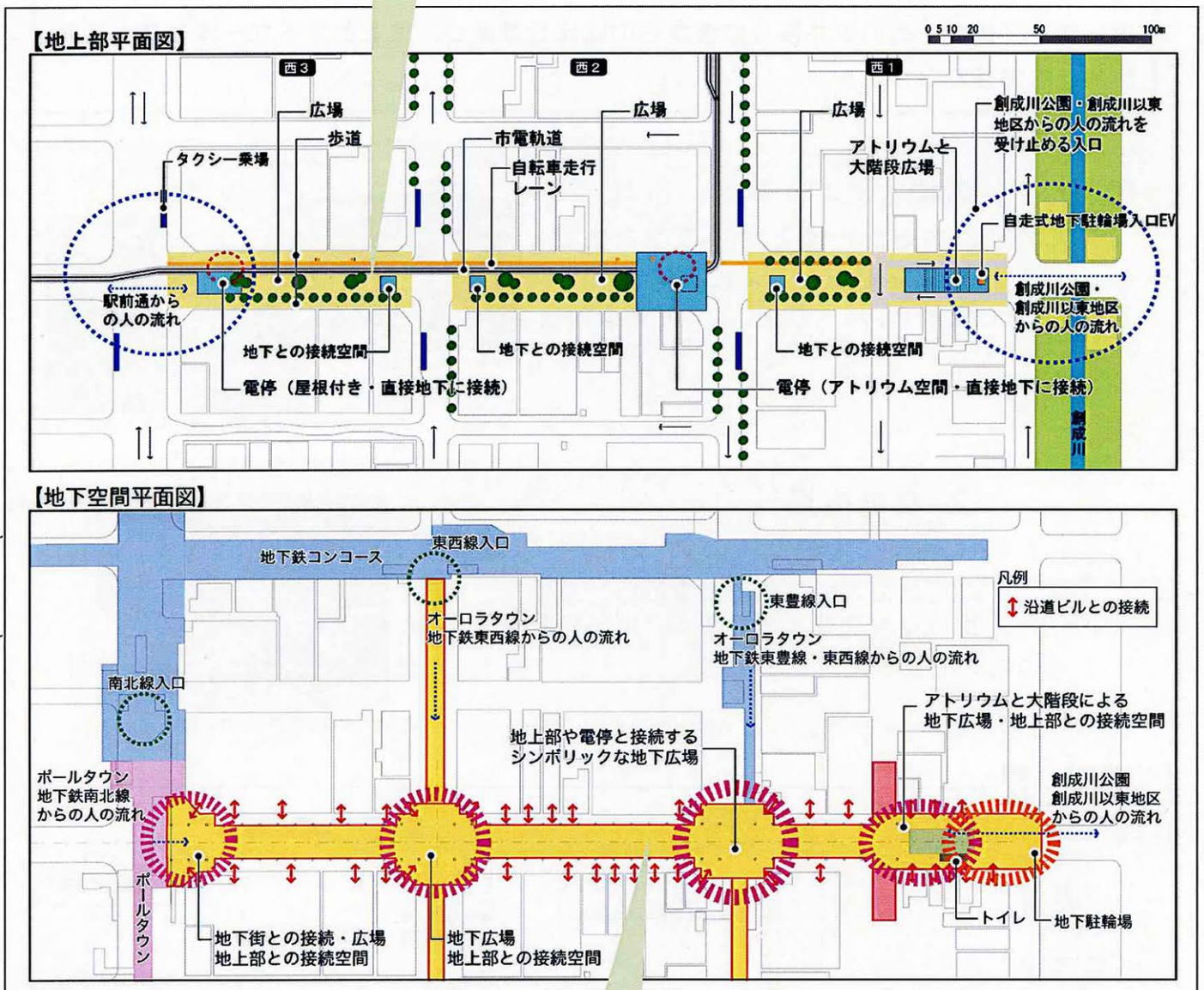
●札幌都心部の回遊性を促進する歩行と交通のネットワークづくり
 創成川公園や大通公園、既存の地下歩行空間と連携しながら、地上や地下、商業施設への動線や、公共交通機関などへの動線がスムーズで、札幌の老舗商業地として賑わいがにじみ出るような、歩いて楽しいストリートづくりと、公共交通のネットワークづくりを目指します。



●路面電車の延伸
 都心来街者の利便性を大幅に向上させる、環境にもやさしい路面電車の延伸。

●歩いて楽しい街区づくり
 民地や中通りなども含めた、地区全体でぶらぶら歩きを楽しめる街区づくり。

●トランジットモール化による人のための空間づくり
賑わいと安心安全を提供する、新たな時代のニーズに応えたトランジットモールの創出。（南一条通の西1丁目から西3丁目の区間）



●天候に左右されることなく快適に歩ける
地下歩行空間の整備

1年を通じて憩いと楽しみを提供し、アクセス性も向上させる地下歩行空間の創出。（南一条通の西1丁目から西3丁目の区間および西3丁目線の南大通までの区間）

<地下・地上空間>

● 地上と地下が連続した多様な活動の展開を支える『地下広場』の創出

交差点部の地下空間に、地下街との接続やオーロラタウン、地下鉄利用者の人の流れを呼び込む地下広場を設けます。広場は、天候に左右されることなく市民が憩い、集い、様々な活動が展開でき、札幌の老舗商業地としての賑わいがにじみ出るような空間を創出します。また、高い天井高や地上からの採光を確保し、地上と地下が一体となった開放的な広場を目指します。

① ゲート広場

～人の流れを受けとめるオープンな広場

地下から路面電車の電停にダイレクトアクセスできる出入口空間や、ポールタウンからの人の流れを受けとめるゲート空間として位置付けます。



有楽町・地下出入口



グラスゴー・ショッピングモール

② 交流広場

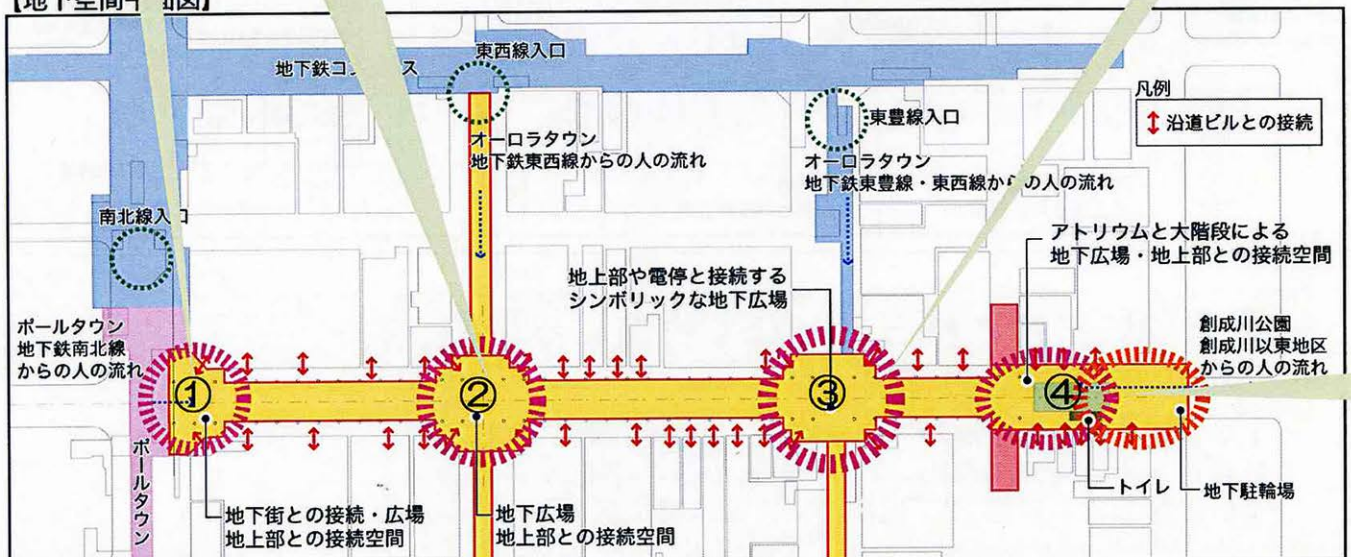
～人と人の交流のステージとなる広場

多目的に利用できる広場とし、マルシェや市民の様々な催事が行える、市民交流ゾーンとして位置付けます。



丸亀町商店街アトリウム広場

【地下空間平面図】

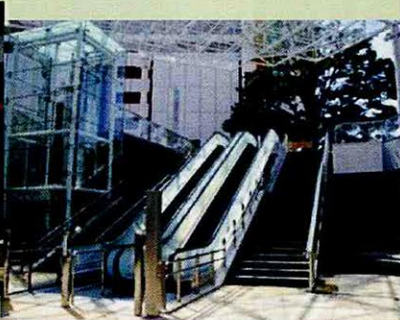


③ シンボル広場

～まちの賑わいが感じられる、電停と一体となったシンボリックな広場
 地下から路面電車の電停に天候に左右されずにダイレクトアクセスできる、電停と一体となった出入口空間を実現し、市電利用者の利便性、快適性を向上させます。また、大屋根やアトリウム空間とすることで、全天候型で賑わいを感じる、市電を降りてみたくなるような、南一条通のシンボルゾーンとして位置付けます。



赤坂サカス・アトリウム広場



静岡駅前・地上地下接続空間



ニュージーランド・アトリウム空間

④ 文化発信ゲート広場

～創成以東地区からのゲート空間・文化発信のステージ・子どもが遊べるキッズパーク・トイレ・駐輪場（人を呼び込む機能の導入）

西1丁目街区は、現在、若中年層の人口増加が進む創成川以東地区住民の南1条通への玄関口であり、また、今年完成した創成川公園を含めた都心部の回遊性を向上させる結節点としてのしつらえが望まれるエリアとなっています。そのため、創成川以東へのゲートとなる吹き抜けのアトリウム空間や大階段、来街者にとって便利な駐輪場やトイレを整備します。大階段は、文化芸術活動のステージ空間として活用し、創成川公園の南一条広場と連携して文化発信の拠点とします。また、子連れでも安心して楽しく都心に滞在できるように、子供が遊べる空間の整備を目指します。アトリウム空間は、光と熱を地下に取り入れる装置として位置付け、環境にやさしい施設としての整備を目指します。



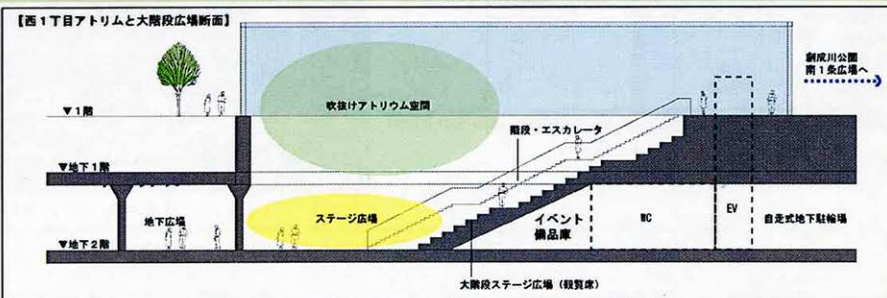
富山 グランドプラザ・アトリウム



大階段イメージ



子どもの遊び場イメージ



富山 グランドプラザ・駐輪所 EV

● 開放的な地上と地下の接続空間づくり

地上と地下を繋ぐ出入口空間は、吹き抜けを設けるなど、明るく開放的で、地上と地下が一体となった接続空間の実現を目指します。

■ 歩行者専用道内に設けられた接続空間例

■ 民間建物内に設けられた接続空間例



グラスゴー・地下鉄入口

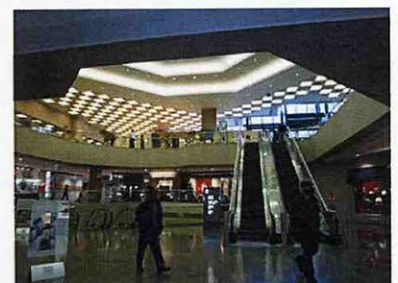
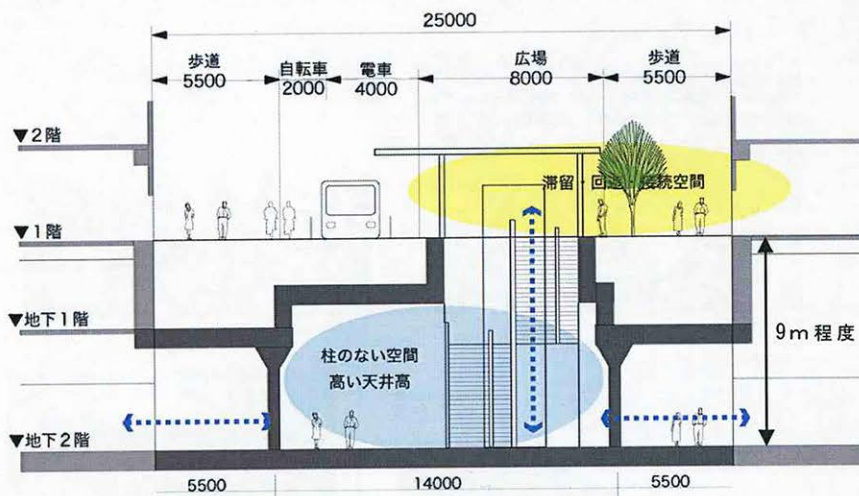


札幌 北洋大通センター（大通ピッセ）

< 地下空間 >

● 柱が無く天井の高い開放的な地下空間の実現

柱を無くし、空間が分断されることなく活用できる地下空間とします。天井の高さも出来るだけ高く確保し、特に、歩行空間に対して、憩いの空間部分の天井を高くし解放感が感じられる空間を目指します。

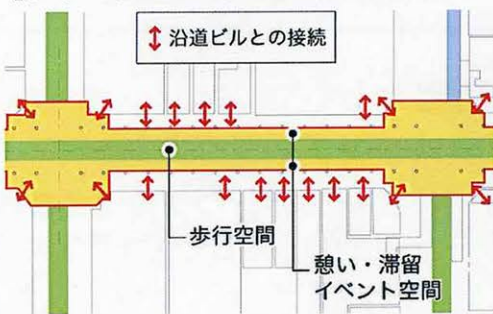


トロント・ショッピングモール、アトリウム

● 地下空間の機能分担の考え方と魅力的な歩行・滞留空間づくり

歩行空間を中央に配置し、滞留空間を両端に配置する案を中心に検討しますが、地上部との接続方法等も含めて継続して検討が必要です。また、魅力的な歩行・滞留空間づくりに向けて、沿道ビルと一体となった賑わいづくりや、気持ちよく休憩したり、催事やイベント等にも対応できるしつらえづくりの検討が必要です。

【歩行空間を中央に配置した場合】



トロント・地下通路

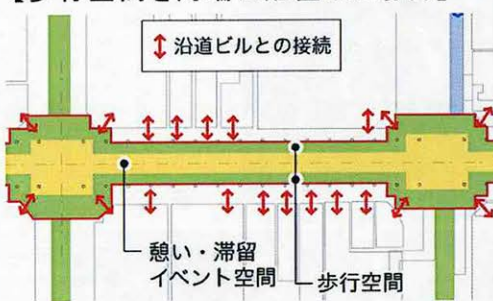
<メリット>

- ・民間ビル再開発等により民地接続空間と滞留空間を一体的に活用することができる。

<デメリット>

- ・地上地下接続空間が小規模になるとともに、左右に分散される。

【歩行空間を両端に配置した場合】



ロンドン・地上地下接続空間

<メリット>

- ・広くて一体的な滞留空間を確保できる。
- ・中央に採光を兼ねた地上地下が一体となった滞留空間を設けることができる。

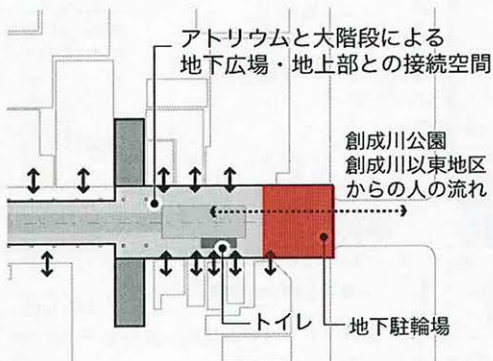
<デメリット>

- ・沿道ビル接続を全面で行わないと、連続した歩行空間・滞留空間を実現できない。

名古屋 オアシス 21・アトリウム

● 地下駐輪場の整備

地下駐輪場は、西1丁目の地下空間に集約して設置し、大通地区への自転車利用者を受け入れます。さらに、地上部の自転車レーンと連動して自転車利用者を安全に駐輪場へ誘導することで、自転車で来やすいまちを目指します。



富山 グランドプラザ・地下駐輪場

<地上空間>

●人々が日常的に集うトランジットモールの実現

地上部は、一年を通して都心部における新たなパブリックライフを札幌市民に提供する場として、人々が日常的に集い、憩える、ヒューマンスケールな空間としていくことを目指します。また、照明灯などのストリートファニチャーは、環境への配慮やデザイン性に優れた話題性を生む仕掛けを検討します。

●日常的な集いや憩いを生み出す広場の活用

～憩いの空間、マーケット、オープンカフェ、スタンディングカフェ

地上部の日常的な空間活用としては、パラソルやテーブル、スタンディングカフェなどを設置して、小規模であっても人が常に集う場とします。また、樹木等を植栽し、潤いのある憩い空間の創出を目指します。



*シアトル 憩いの空間

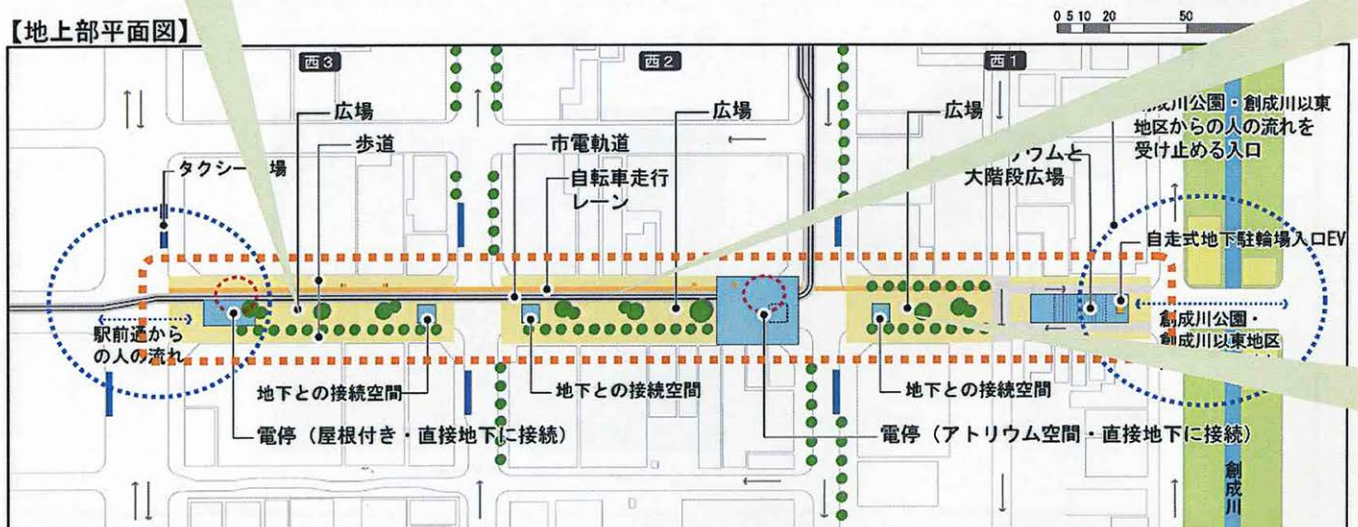


マーケットイメージ



オープンカフェ・スタンディングカフェイメージ

【地上部平面図】



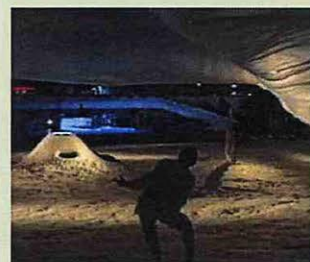
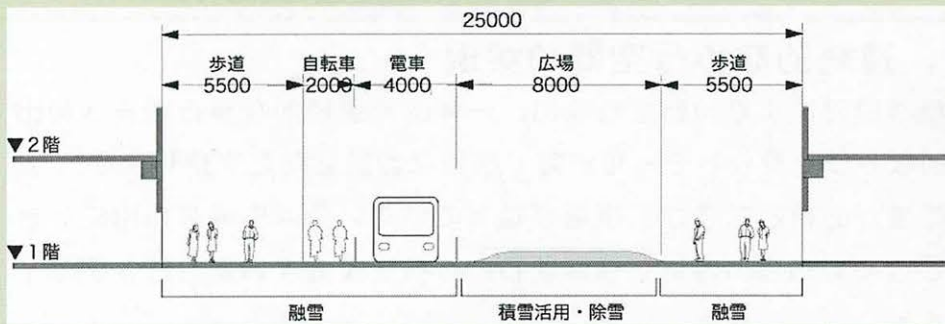
● 都心部における「冬」の新たなライフスタイルの提案

～冬期間の賑わいを生む冬のマーケットやアイスバー、冬や雪をテーマとしたアートワークのステージ、冬の演出、雪や冬を楽しむイベント

冬期間においても安心安全な歩行環境の実現と、札幌の特徴とも言える積雪を活かした広場空間の活用を進め、1年を通して賑わいのある魅力的なまちづくりを目指し、冬期間の都心部における新たなライフスタイルを南1条から提案します。また、歩道等の融雪には、地中熱など自然エネルギーの活用を検討し、ランニングコストの低減や、先進的で環境にやさしい地域としてPRします。



冬の活用イメージ



● デザイン性に優れ話題性のあるストリートファニチャーの導入

ストリートファニチャーは、通りとしての統一感や、街区ごとの個性が出せるデザインなどを検討します。検討にあたっては、市立大学や平岸高校などのデザイン系の学生と連携したり、世界に開かれたデザインコンペなどを実施し、デザイン性に優れた話題性のあるものとしします。また、照明灯は、LED照明とするほか、ハンギングやバナーを取り付けられるようにしたり、LRTの架線が必要となった場合は、架線ポールと一体的にデザインします。



トロント ストリートファニチャー

<地上空間>

● 新たな環境時代の象徴となるような路面電車の導入

新たな環境時代の象徴となるような、先進的で話題性を生むデザイン性に優れた路面電車の導入を目指します。車体、乗り場、サイン表記など、トータルなユニバーサルデザインにより、わかりやすく利用しやすいものとしします。

軌道は単線とし、片側に寄せることで広い広場空間を確保し、また、架線のいない電力供給方式としたり、目立たない架線構造とすることで、良好な景観・見通しを確保します。

■ デザイン性に配慮した市電と、架線が無い・目立たない軌道イメージ



富山



* ストラスブール



富山

● 柵や段差の無い、連続的な歩行空間の実現

広場や歩道が、軌道の柵や段差により分断されない、一体的で連続的な歩行環境を創出し、日本初となる本格的なトランジットモール空間・快適な回遊空間を実現します。

(現行の日本では柵の設置が必須となるが、市電が走っていない時は広場を自由に行き来できるよう柵を設置しなくても良い方法を模索する。※柵を設置する場合は、デザイン性に配慮したものとする。)

■ 柵の無い、市電軌道と歩行空間の共存イメージ



ミュンヘン



ニュージーランド



* ポートランド

● 自転車で来やすいまちづくり

通年利用できる自転車レーンを全区間に設け、自転車で来やすいまちを PR し、大通地区への自転車での来街を促します。自転車レーンは、幅員 2m（自転車 1 台占有幅 1m × 2）を 1 レーン整備することを想定し、整備位置等は全体の機能配分の中で検討します。また、レンタサイクルの導入についても検討します。

■ モントリオールの自転車レーン



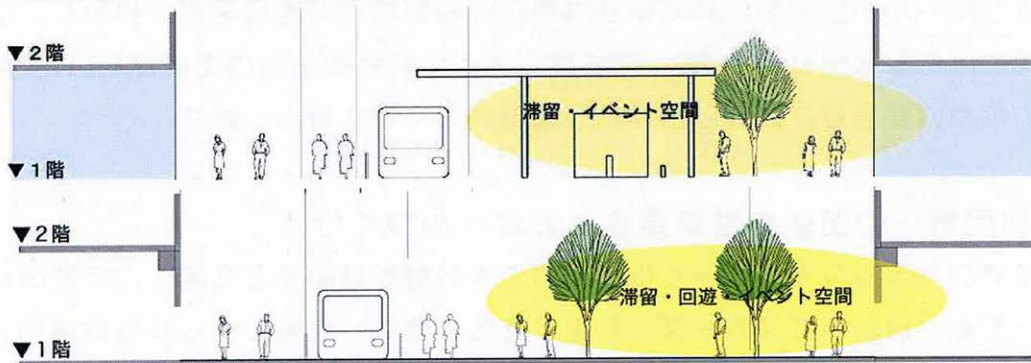
モントリオール

■ レンタサイクル



札幌 ポロクル

■ 軌道沿いに隣接して自転車レーンを設置した場合



- 軌道と自転車レーンが片方に寄るため、一体的な広い広場・回遊空間が確保される
- 歩行者の横断が 1 回で済む
- 電停位置との調整が必要

■ 軌道の反対側に自転車レーンを設置した場合



- 電停位置の影響を受けずに整備可能
- モール中央部に広場を確保することができる
- 歩行者が道路を渡るには、自転車走行レーン・軌道の 2 度の障害を越える必要がある

● 地区内の社会的課題の解決を進めます**○駐輪対策**

自転車走行レーンや利用しやすい駐輪場の設置を検討し、自転車で来やすいまちづくりを進めるとともに、歩行者と自転車利用者の動線が交錯しない空間づくりや、違法駐輪を無くしたり、自転車利用マナー向上に向けた取組みを行い、市民が快適に過ごせる都心空間の創出を目指します。

○タクシーやバス利用者への配慮

地下鉄や市電利用者だけではなく、タクシーやバス利用者の利便性も向上させるため、タクシーベイやバス停の考え方を地区全体で検討し、多様な交通手段で来やすいまちづくりを目指します。

○エリア全体での荷さばき計画

荷さばきルールの設定や、共同荷さばき場の設置などを地区全体で検討し、スムーズな荷さばきシステムの実現と、荷さばき車と歩行者の動線の交錯がない、安全で、まちの賑わいが通りににじみ出るような環境づくりを目指します。

○車利用者への配慮や駐車場などのルールづくり

南一条通のトランジットモール化により歩車分離を進めると同時に、車での来街者にとっても、目的地にスムーズに到達できるように、交通ルールや駐車場のルールを地区全体で検討します。

● 来て楽しい・歩いて楽しい都心の回遊性を高める仕掛けづくり

創成川公園や大通公園、既存の地下歩行空間と、南一条通に創出される地下歩行空間とトランジットモールとのネットワークに加え、中通りや民地内でも歩いて楽しい、地区全体での回遊性を高める仕掛けづくりを検討します。

● 地域連携による環境対策

○ 自然エネルギーの活用

地区内の施設整備にあたっては、太陽エネルギーや地中熱などの自然エネルギーの積極的な活用を検討します。

また、例えば、マイクログリッド（地区内で、複数の分散型電源・電力貯蔵設備および制御装置等を組み合わせてネットワーク化し、エネルギー（電力・熱）を供給するシステム）の導入など、新たな時代の環境街区づくりを目指します。

○ 地球環境に優しい空間づくり・イベントの展開

地球環境に優しい空間づくりや、環境にやさしいライフスタイルを南一条から発信する、イベントなどの展開を検討します。

● 地区全体のまちづくりのルールづくり（地区計画案の提案）

建物の用途や、南一条らしい景観を維持創出するための建築形態・ボリューム、また、建物の建替え時のインセンティブを見据えた公共貢献の有り方など、地区全体のまちづくりのルールづくりを検討します。

掲載写真出典

* : 倉田直道工学院大学建築都市デザイン学科教授 所蔵
その他 : KITABA 撮影 イメージフォト集より



札幌南一条地区開発事業推進協議会

〒060-0061 北海道札幌市中央区南 1 条西 2 丁目南 1 条Kビル
TEL : 011-261-0151 FAX : 011-241-3015